

山村教育留学生の受け入れを拡充

新生「奥会津学習センター」完成！

町では、只見高校へ通う山村教育留学生の受け入れを拡充するために、昨年6月より留学生の寮「奥会津学習センター」の増設工事を進めました。既存学習センターの向かい側に増設された学習センターは、今年3月23日に完成となり入寮を開始し、4月から47名（男子29名、女子18名）が居住します。

今月号では、留学生が新生活を送る新生「奥会津学習センター」を紹介します。



▲3月23日に竣工した奥会津学習センター

―奥会津学習センター―

設置の背景

只見町にある県立只見高校の生徒数は、少子化や人口減少の影響を受け、地元の子ども達だけでは定員を満たすことができない状況となっています（広報たのみ3月号No.562参照）。

そこで只見町では、安定した生徒の確保を目指し、只見高校の永続的存続のため、平成14年度から「山村教育留学制度」を開始し、町外から只見高校に通う生徒の受け入れをスタートしました。

平成17年度には、旧北里大学の教育実習寮を改築して奥会津学習センターを設置し、留学生が安心して生活を送れる生活拠

点の整備を行い、留学生の募集を強化しました。

増設前の奥会津学習センターの定員数は40名で、1学年あたり約13名が最大の受入れ人数でした。しかし、近年においては、

只見高校入学生の約4割が留学生となっており、平成25年度以降は留学生が14〜16名と急増しました。それにより、学習センターの受入定員を超える留学生に ついては、下宿での対応としていたため、留学生が学習センターと下宿と分散している状況でした。

そこで今回、奥会津学習センターの増設工事を行い受入数を40名から60名に増やし、1学年あたり20名の受入を可能としました。また、増設により只見高

校存続に最低限必要な新入生徒数35名（定員70名の半数）のうち、留学生だけで半数以上確保できる体制が整ったため、あわせて留学生募集の強化が行われました。

―奥会津学習センター―

機能と設備

奥会津学習センターの増設工事は、既存学習センターと向かい合う形に造られ、既存学習センターが男子寮（部屋数16室／32名収容）、新設した学習センターが女子寮（14室／28名収容）となっており、寮室は1部屋2名での入室となります。

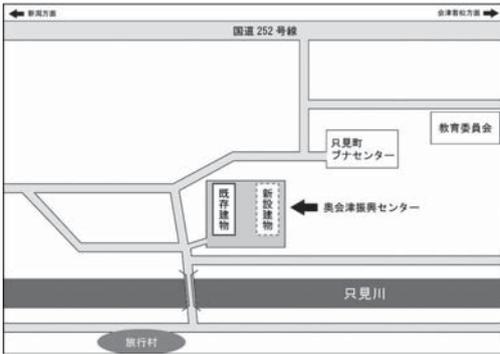
寮には、談話室や学習室などが設けられており、学習だけで



▲スタディルーム(学習室)



▲洗濯・乾燥室



▲地図



▲2人1部屋で生活する寮室

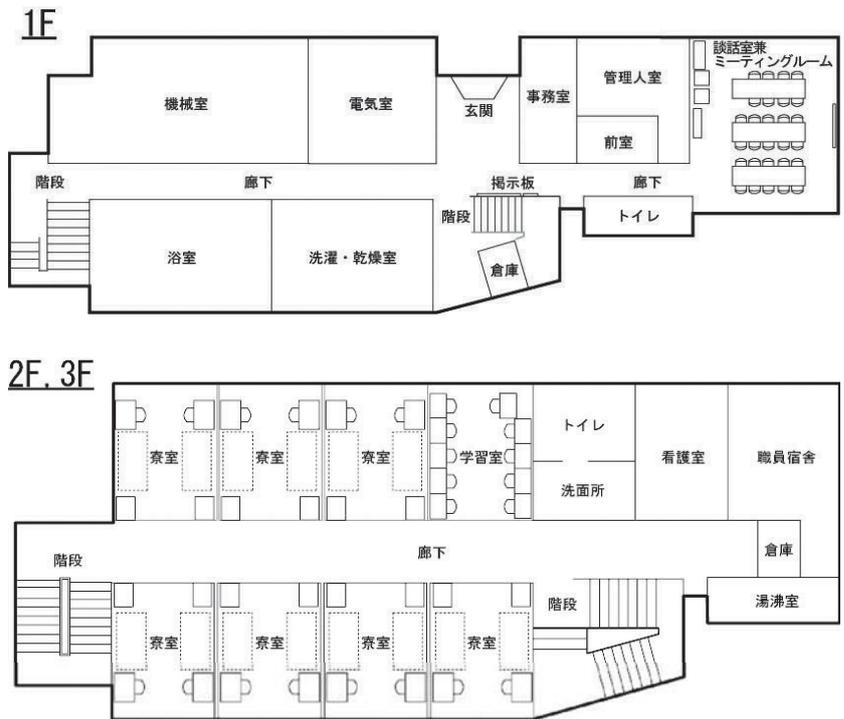


《Voice》

地域おこし協力隊
ハウスマスター
松本 貴芳さん

皆さんはじめまして。まずは僕なりのハウスマスターの役割についてお伝えします。ハウスマスターは”聴き役”だと思っています。生徒の悩みを聴き、想いを聴き、それぞれの生徒が幸せに只見で暮らしていけるようにサポートする。そんな役割です。一人でも多くの生徒に「只見に来てよかった。」と感じて貰えるように頑張っていきます。

《建物図面》



なく、仲間とのコミュニケーションが図られるような機能が備わっています。

— 管理人やハウス

マスターがサポート

寮の管理はNPO法人ゆいネット只見(目黒淳一理事長)が町から指定管理を受けて行っています。また、留学生が安心して生活を送れるよう、寮にはハウスマスターや管理人が常駐し、教員も同寮に生活しているため、悩み事などの相談に応じることが可能です。

— 進化途中の学習センター

奥会津学習センターは、ただ生活を送るだけの場所ではなく、只見高校や公営塾「心志塾」と連携を図り、留学生が将来社会で活躍できるように、また、生涯を通して只見町の応援団となつてくれる人材を育成していきます。只見町はこれからも、只見高校を全力でバックアップしていきます。

— お問合せ先

只見町教育委員会
0244-1(82)5320